



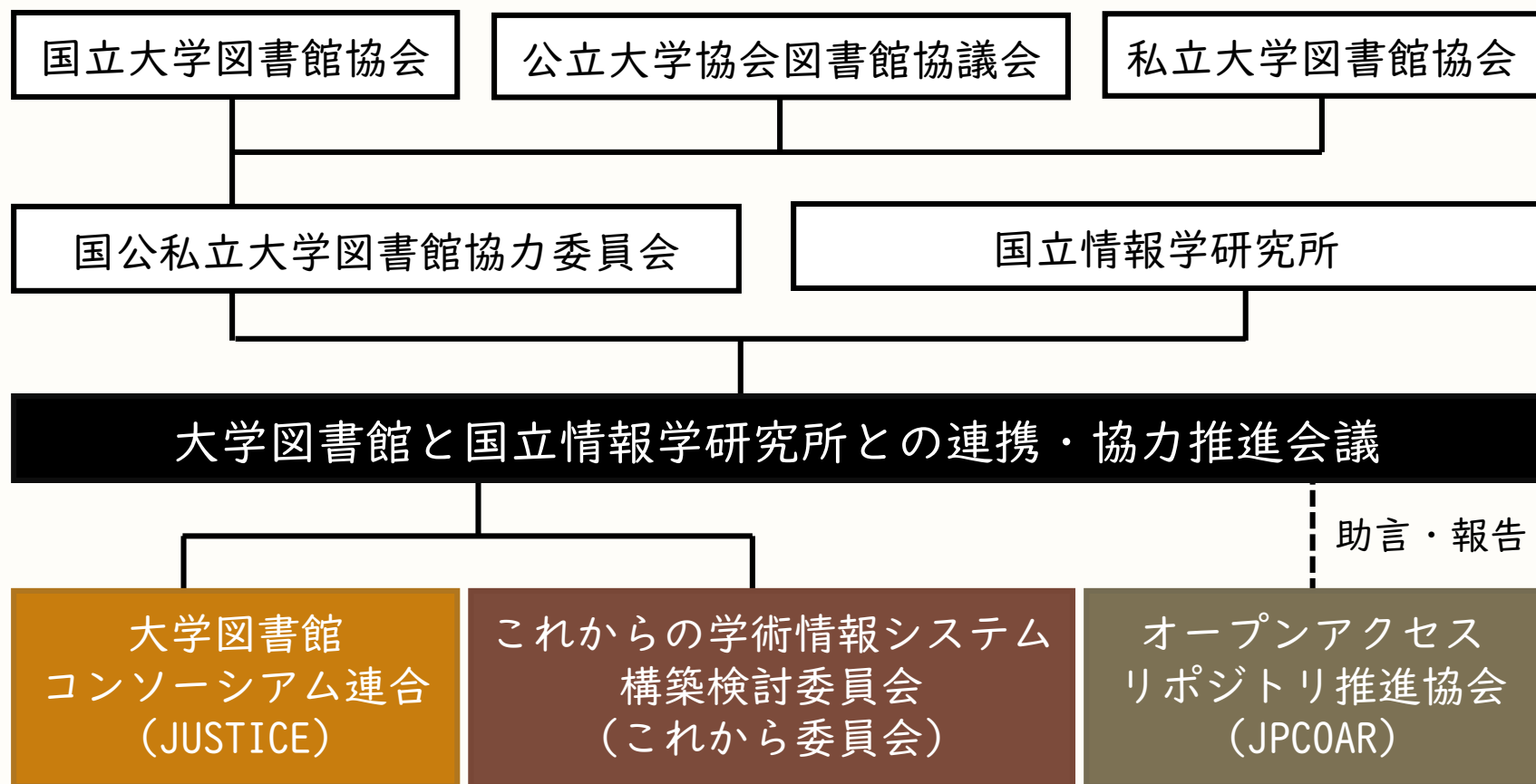
これから委員会のゴール 2022年を目指して

これからの学術情報システム構築検討委員会
小山憲司 (中央大学)

目次

- イントロダクション
- これから委員会のゴール：2022年を目指して
 - ここまでの発信をふりかえる
 - ここまでの検討をふりかえる
 - 私たちが共有するもの、協働すること

検討体制の概要



これから委員会における検討の経緯

委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015	<u>「これからの学術情報システムの在り方について」</u>	電子リソースデータ共有作業部会 設置 ERDB-JP公開
2016		NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2017	「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」	「基本方針」 「実施方針」
2017	「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（2017年度最終報告）」	
2018	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」他	「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」 （→CAT2020）
2018	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」</u>	
2019	作業部会の再編	
2020		
2021		

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

3. 本委員会の当面の課題

上記の学術情報資源の変化に鑑み、進むべき方向性を見据えて、以下の2点を当面の課題とする。

(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

電子リソースデータ共有作業部会

(2) NACSIS-CAT/ILLの再構築（軽量化・合理化）

NACSIS-CAT検討作業部会

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

- 大学図書館等とNIIは、高等教育機関等における教育及び研究を支えるため、総合目録データベースと各大学図書館等の図書館システムを基礎として、研究者や学生等が電子情報資源や印刷体を区別なく利用できる、統合的発見環境を実現する新たな図書館システム・ネットワークの構築、管理、共有及び提供にかかる活動を連携して推進する。

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

3. 進むべき方向性

これまでの検討を踏まえ、これからの学術情報システムが実現すべき機能及び検討課題について、以下の5点にまとめた。

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークの構築
- (2) 持続可能な運用体制の構築
- (3) システムの共同調達・運用への挑戦
- (4) メタデータの高度化
- (5) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

4. 次に取り組むべき課題

本委員会では、3のうち、次に取り組むべき課題を以下の3点とする。

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築

システムワークフロー検討作業部会（飯野勝則主査）

- (2) 持続可能な運用体制の構築

- (3) システムの共同調達・運用に向けた課題検討

システムモデル検討作業部会（相原雪乃主査）

ふりかえり 方針

これから委員会

図書館システム・ ネットワークの 将来像

ワークフロー部会

共同利用システム

NII

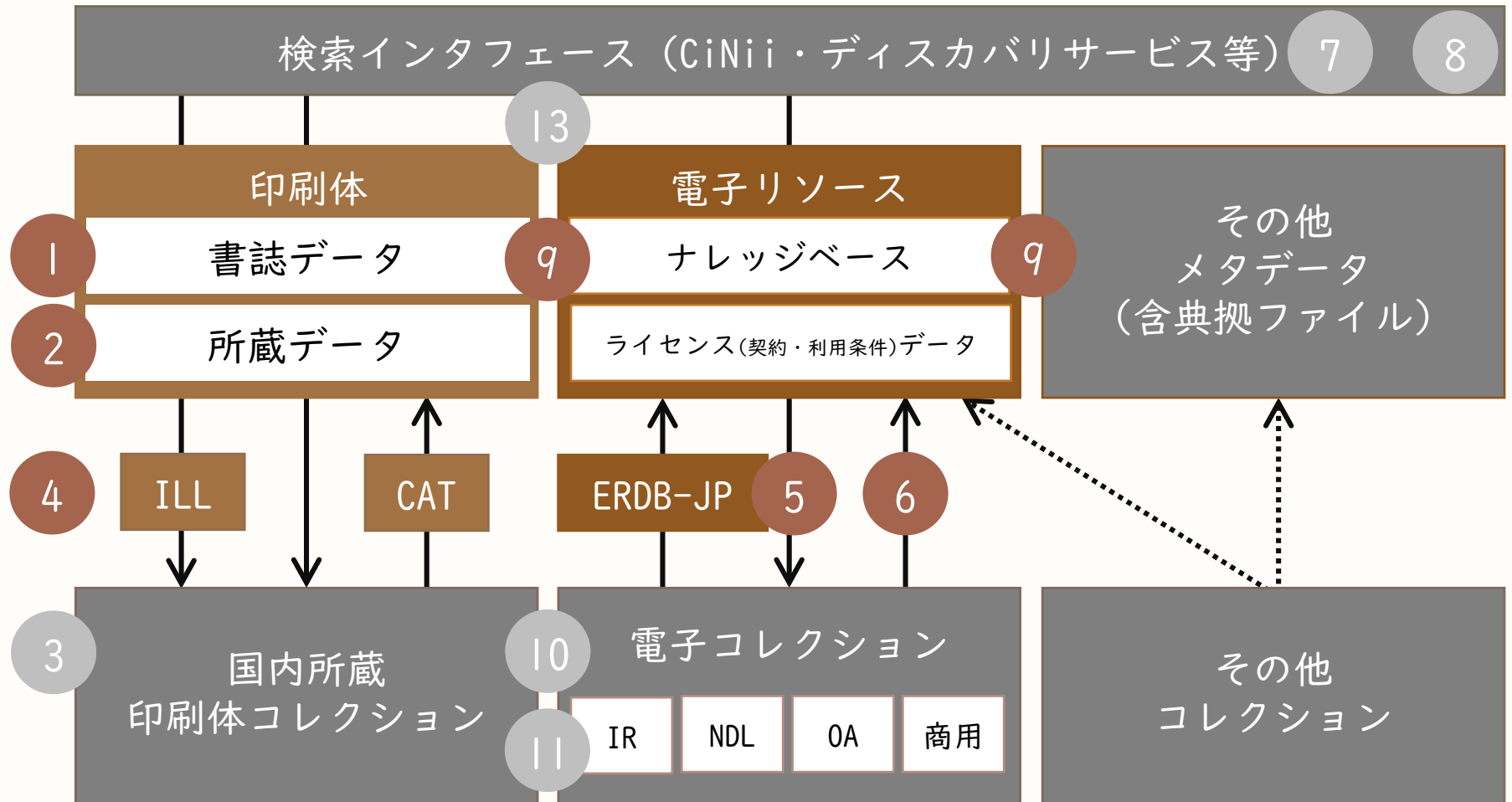
共同利用システムとメンバーシップ

モデル部会

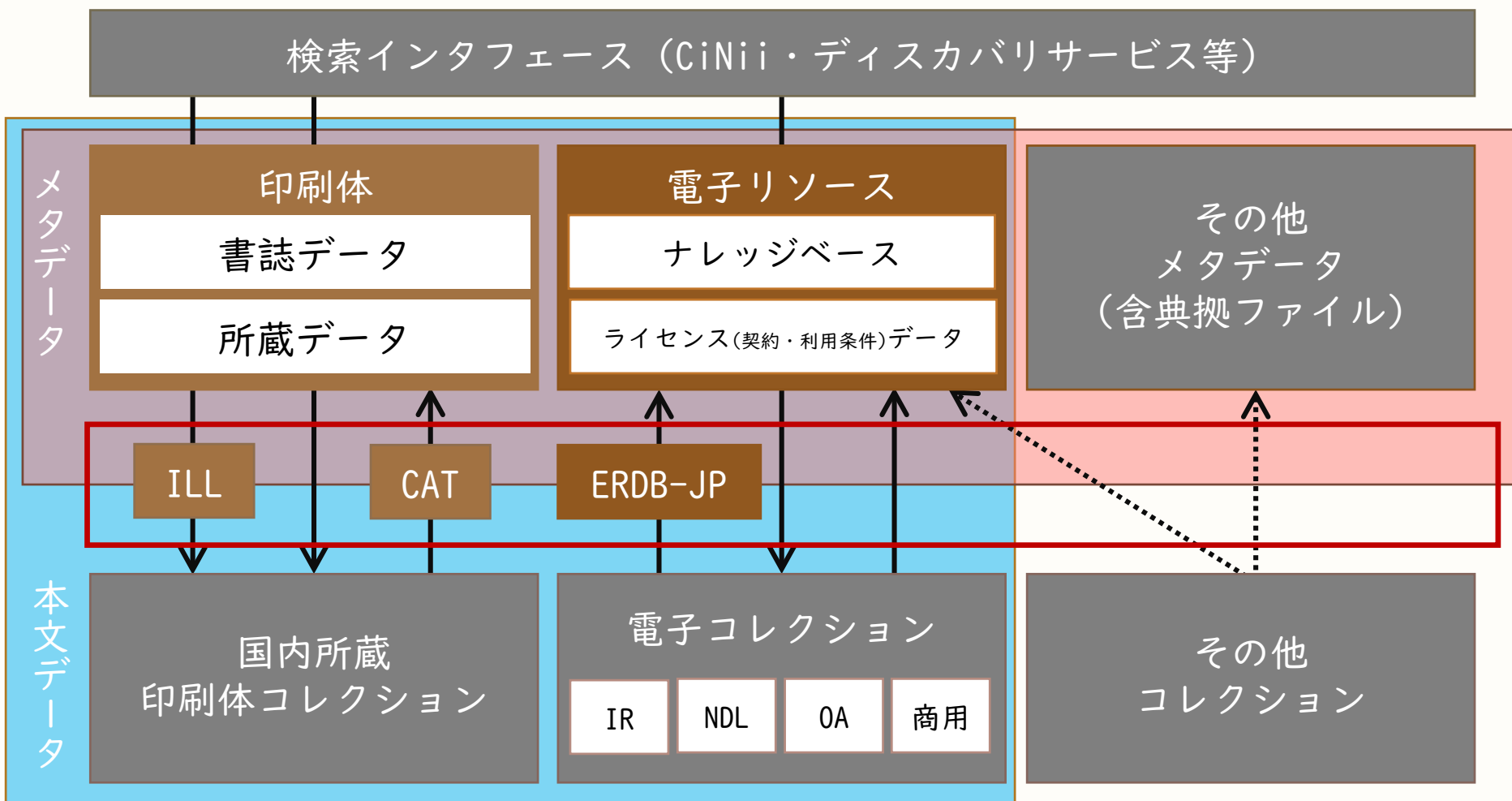
目次

- イントロダクション
- これから委員会のゴール：2022年を目指して
 - ここまでの発信をふりかえる
 - ここまでの検討をふりかえる
 - 私たちが共有するもの、協働すること

12 これからの学術情報システムの方向と課題



「これからの学術情報システム」が目指すもの、 「これからの学術情報システム」で目指すもの



在り方(2019) で展望したこと

発見と
アクセス

利用者

- ・発見可能性の向上
- ・アクセスの向上
- 利用者の文脈への接近

国立情報学研究所

【貢献】

- ・学術コミュニティのニーズに沿ったシステムの開発・提供

【恩恵】

- ・共同利用機関としてプレゼンスの向上
- ・研究開発

検索
インタ
フェース

メタデータ
DB

コンテンツ
DB

業務
アプリ

図書館システム・
ネットワーク

システム (含制度)

- ・持続可能性
 - 経費削減
 - 改善・高度化
 - 人材育成
- ・相互運用性
 - 国際標準化
 - 外部連携
 - 学術コミュニティへの寄与

スリム化
最適化

図書館

【貢献】

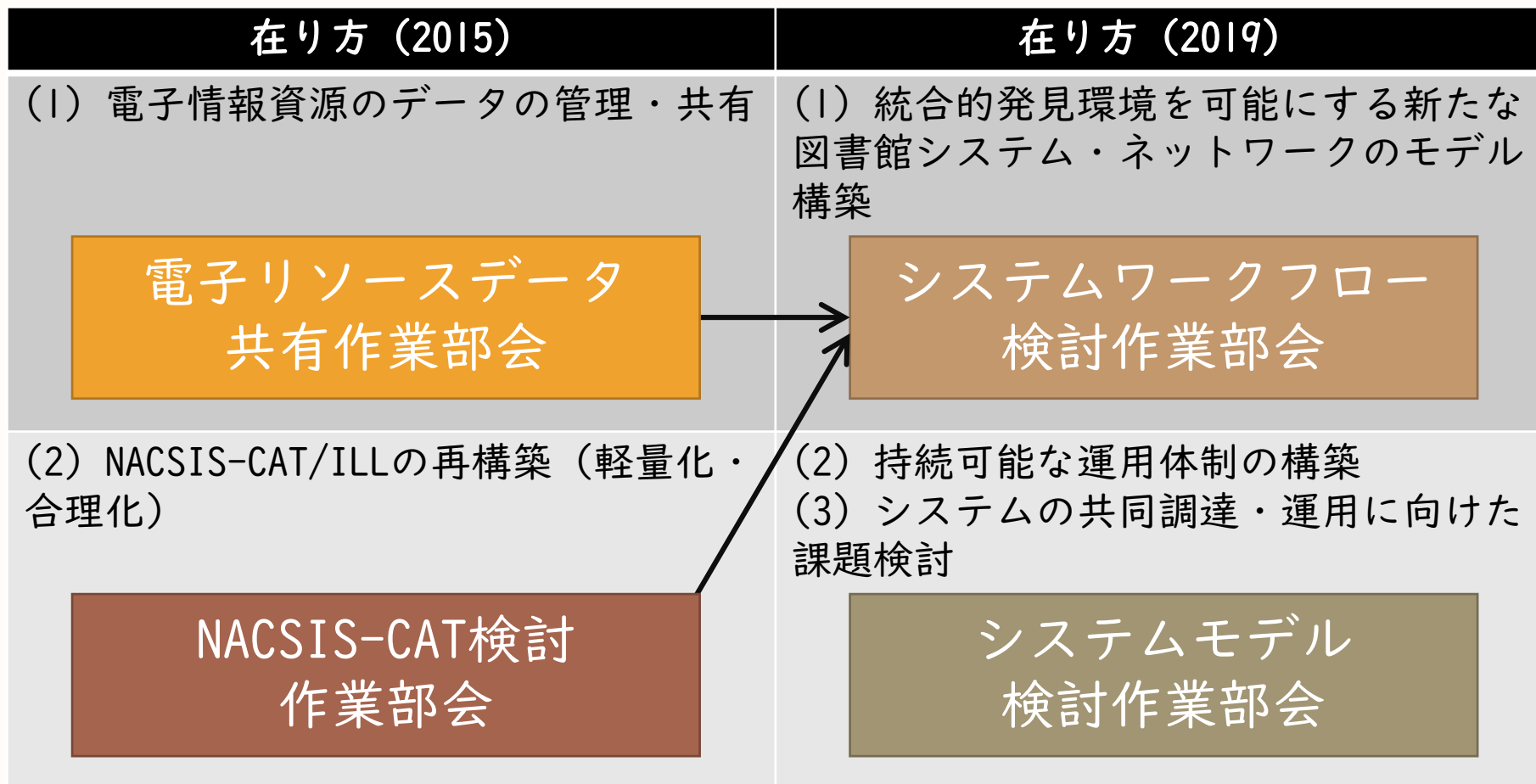
- ・学術情報の提供
 - メタデータ
 - コンテンツ
- ・運営・意思決定への関与
- ・適切な経費負担

【恩恵】

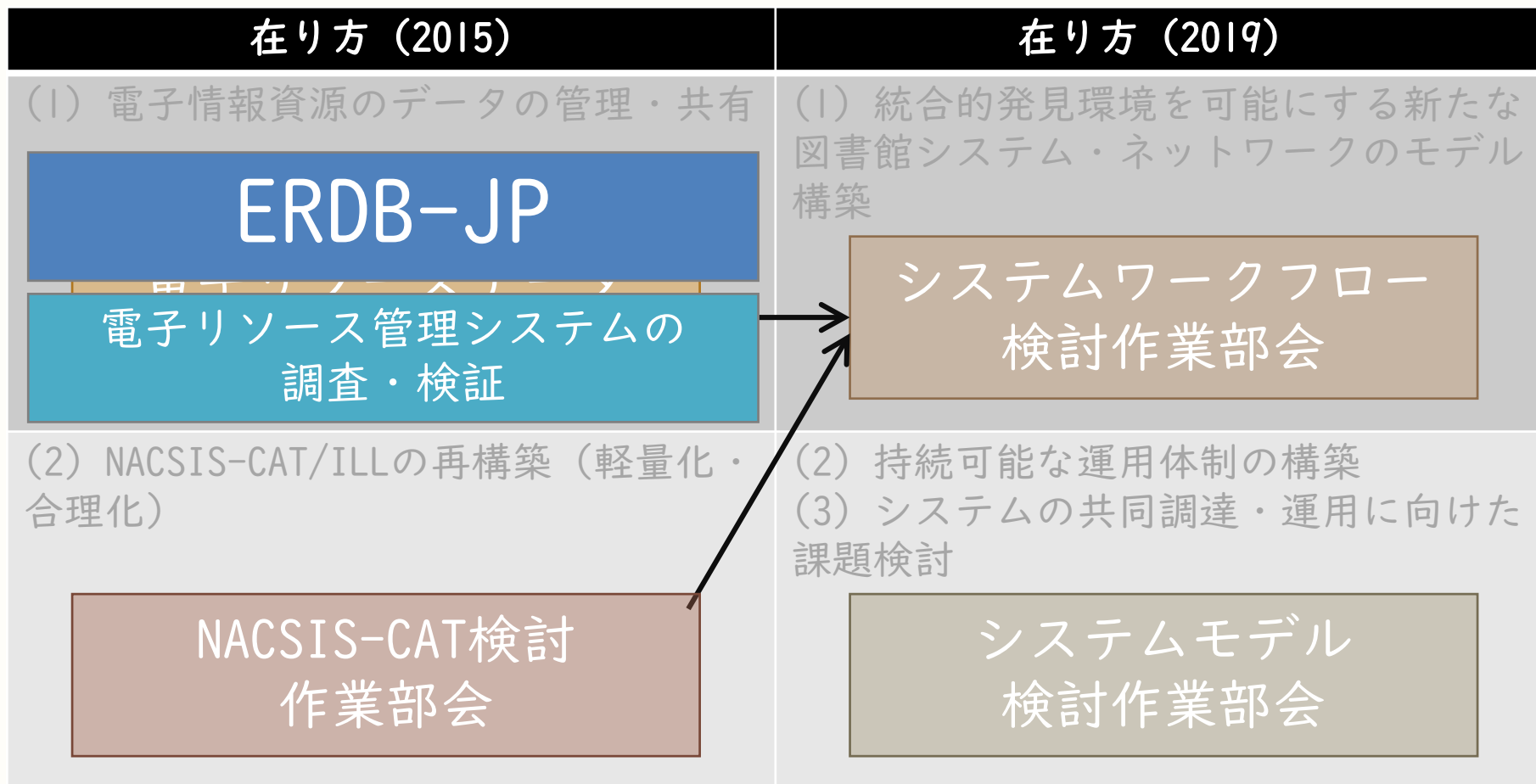
- ・図書館運営の省力化
 - 業務の標準化
 - 人員の適切な配置
- ・図書館運営の効率化
 - 経費縮減
 - システムの高度化
- ・図書館運営の高価値化
 - 資源共有の強化
 - 需要に合ったコレクション構築

高度化
最大化

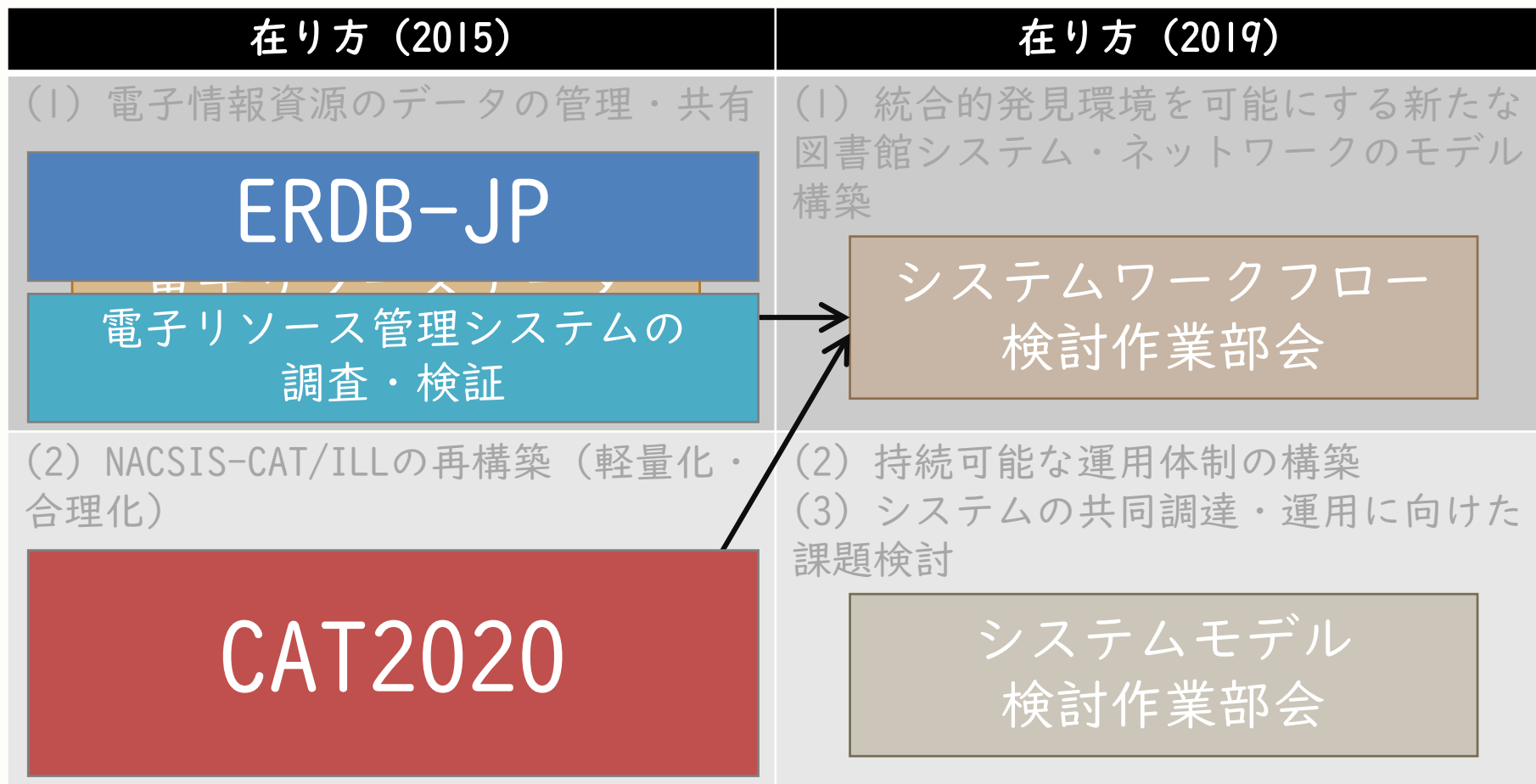
ここまでの検討の経緯（まとめ）



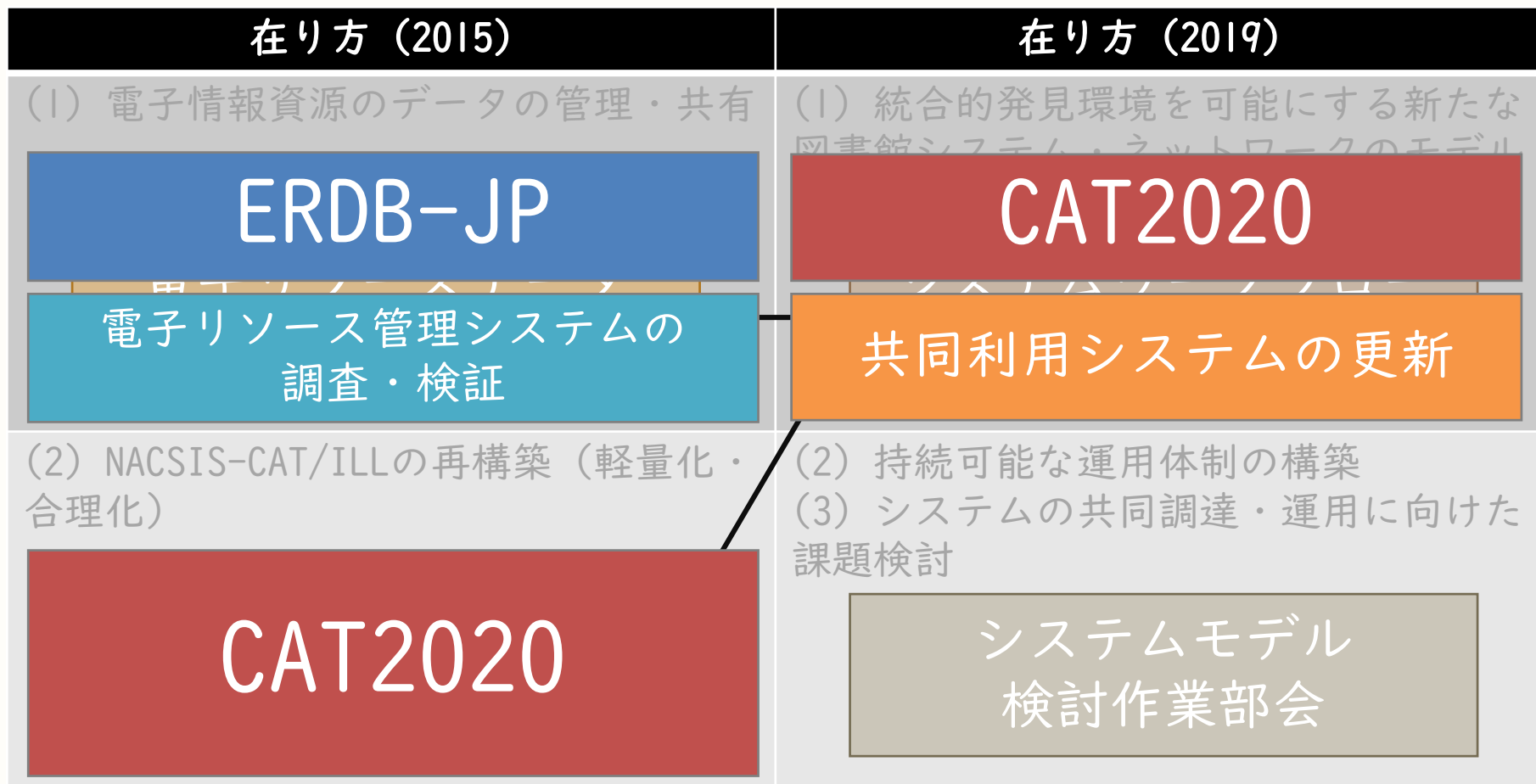
ここまでの検討の経緯（まとめ）



ここまでの検討の経緯（まとめ）

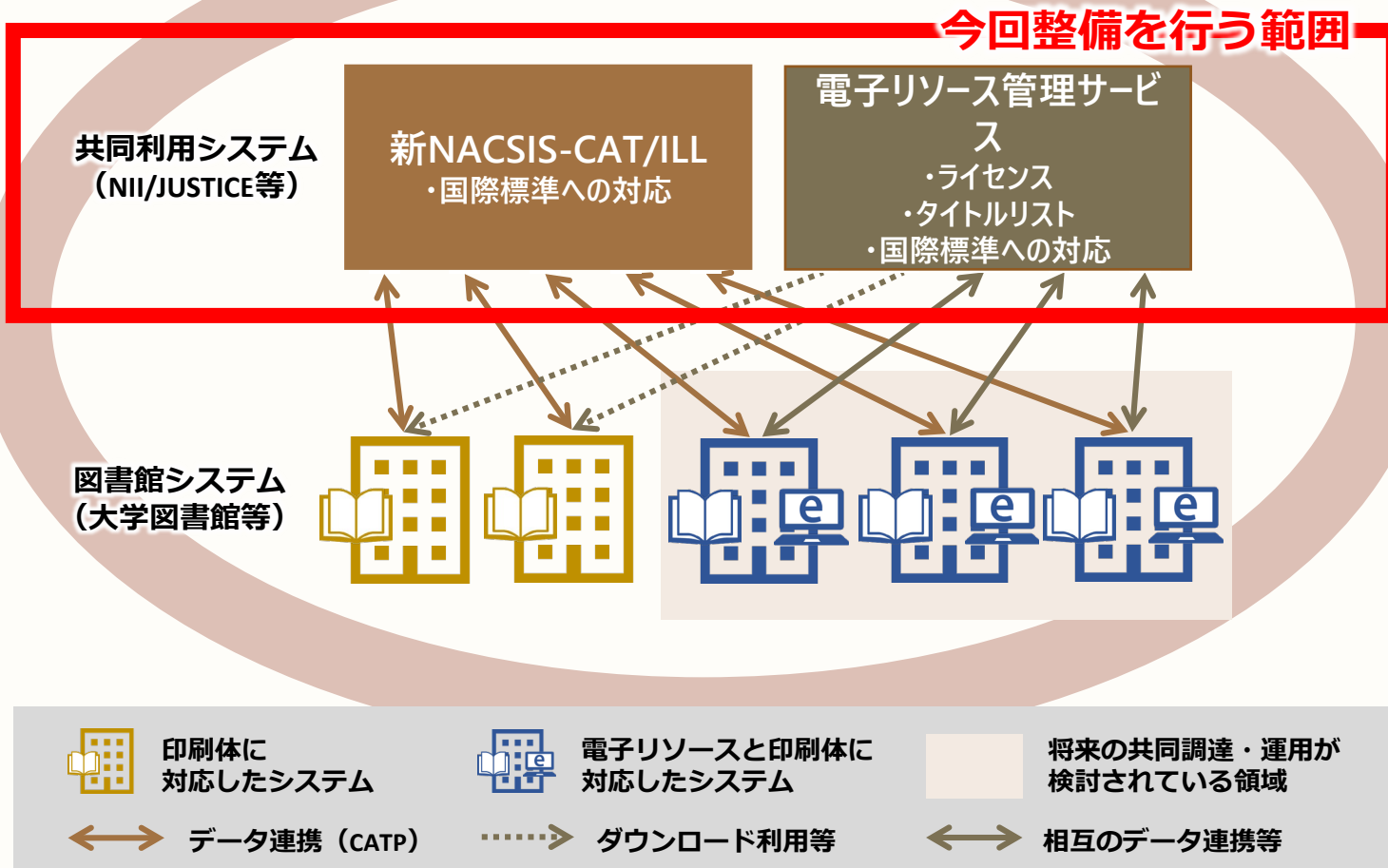


ここまでの検討の経緯（まとめ）



大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新
 学術資料のデジタル化に対応した目録所在情報サービスを2022年から順次
 運用開始

図書館システム・ネットワーク（大学等）



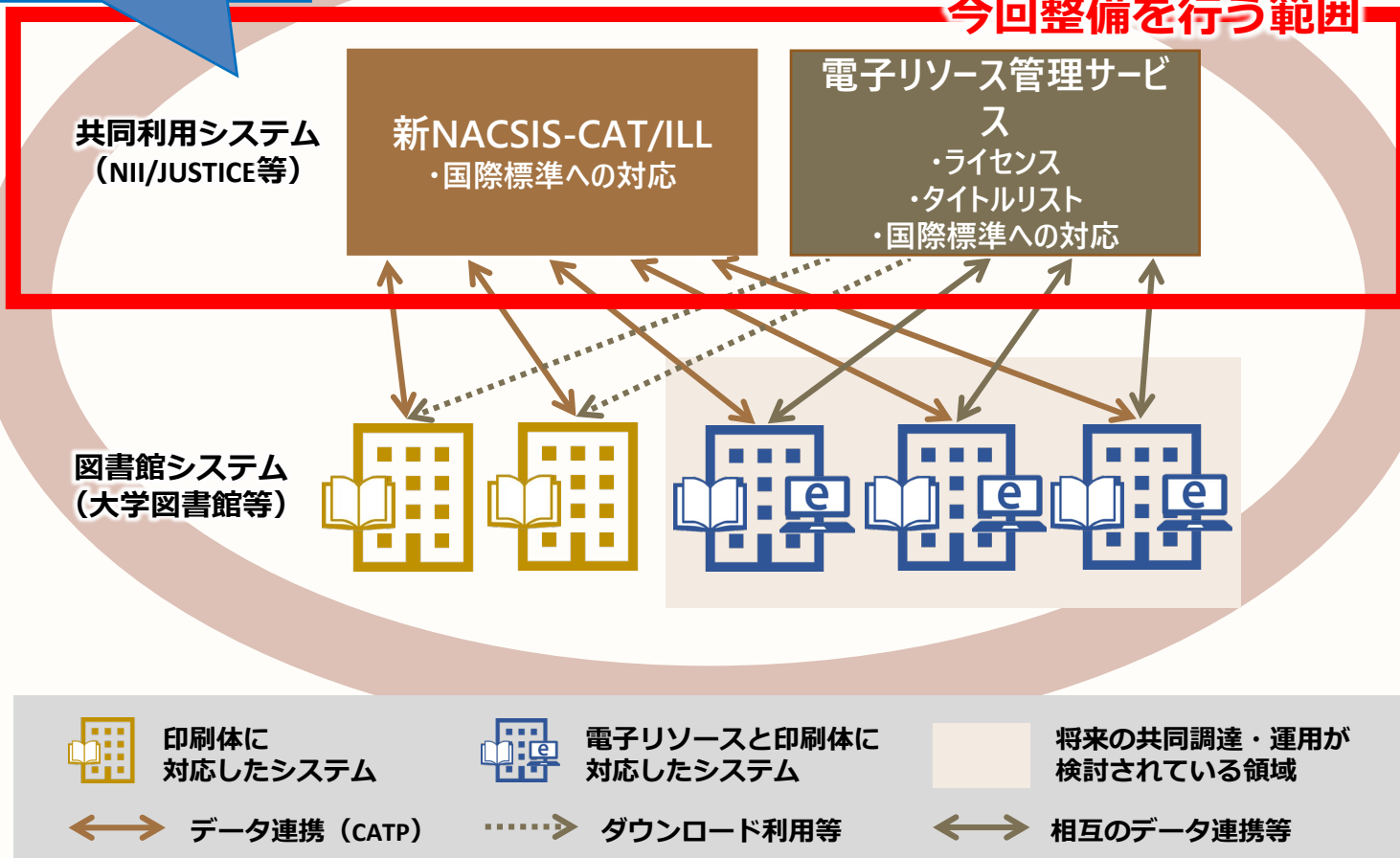
大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新

紙だけでなく、
電子も扱える
システムの構築

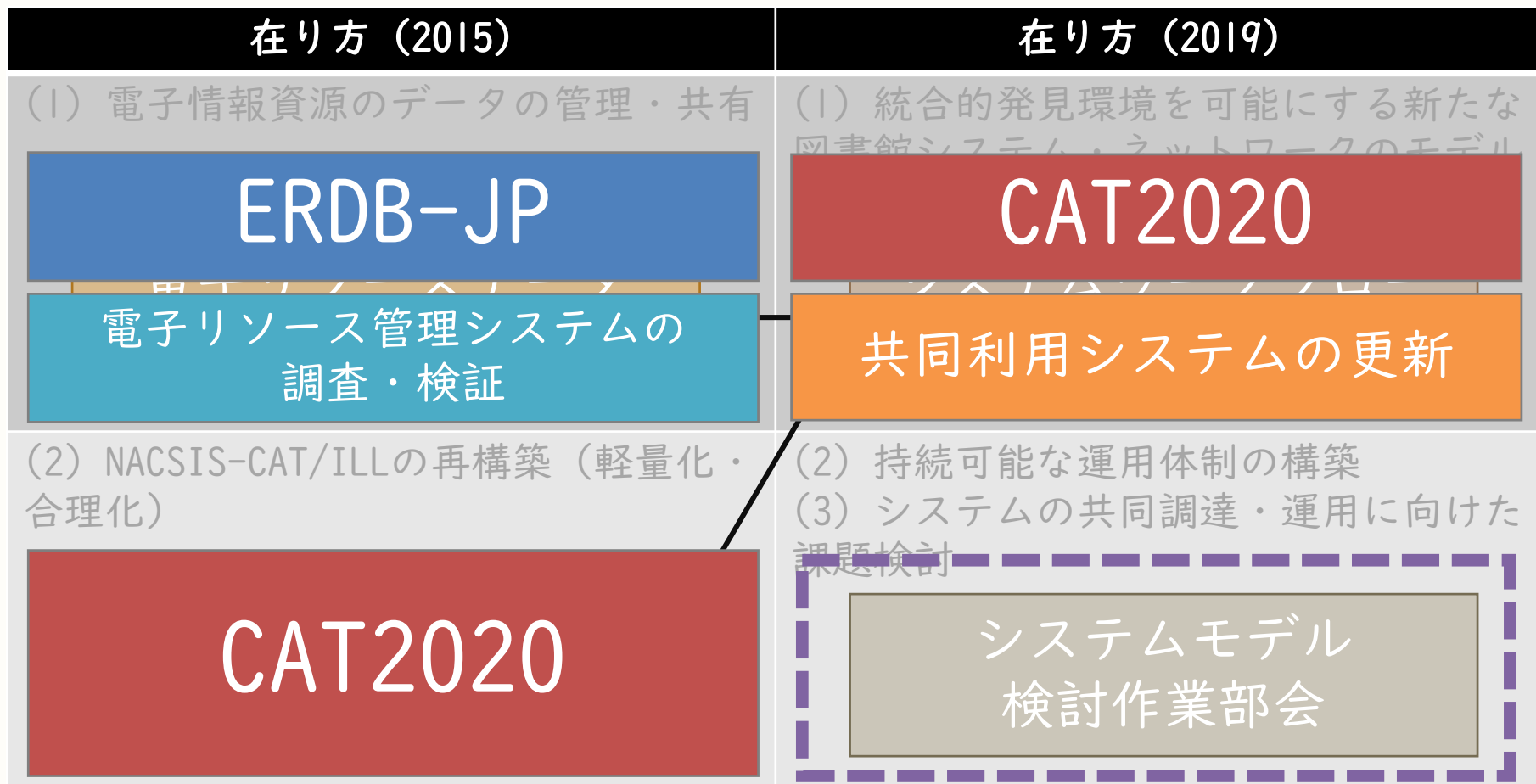
化に対応した目録所在情報システムを2022年より順次

システムワークフロー検討作業部会

今回整備を行う範囲

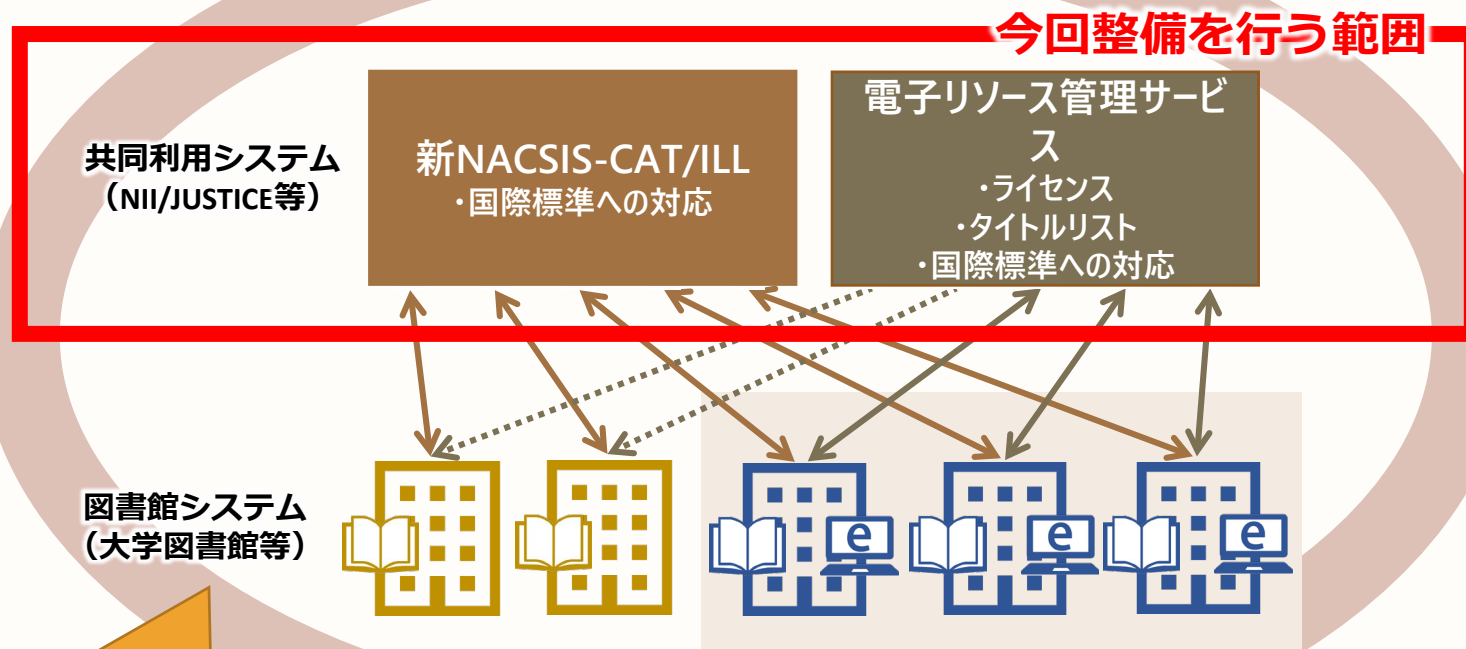


ここまでの検討の経緯（まとめ）



大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新
学術資料のデジタル化に対応した目録所在情報サービスを2022年から順次
運用開始

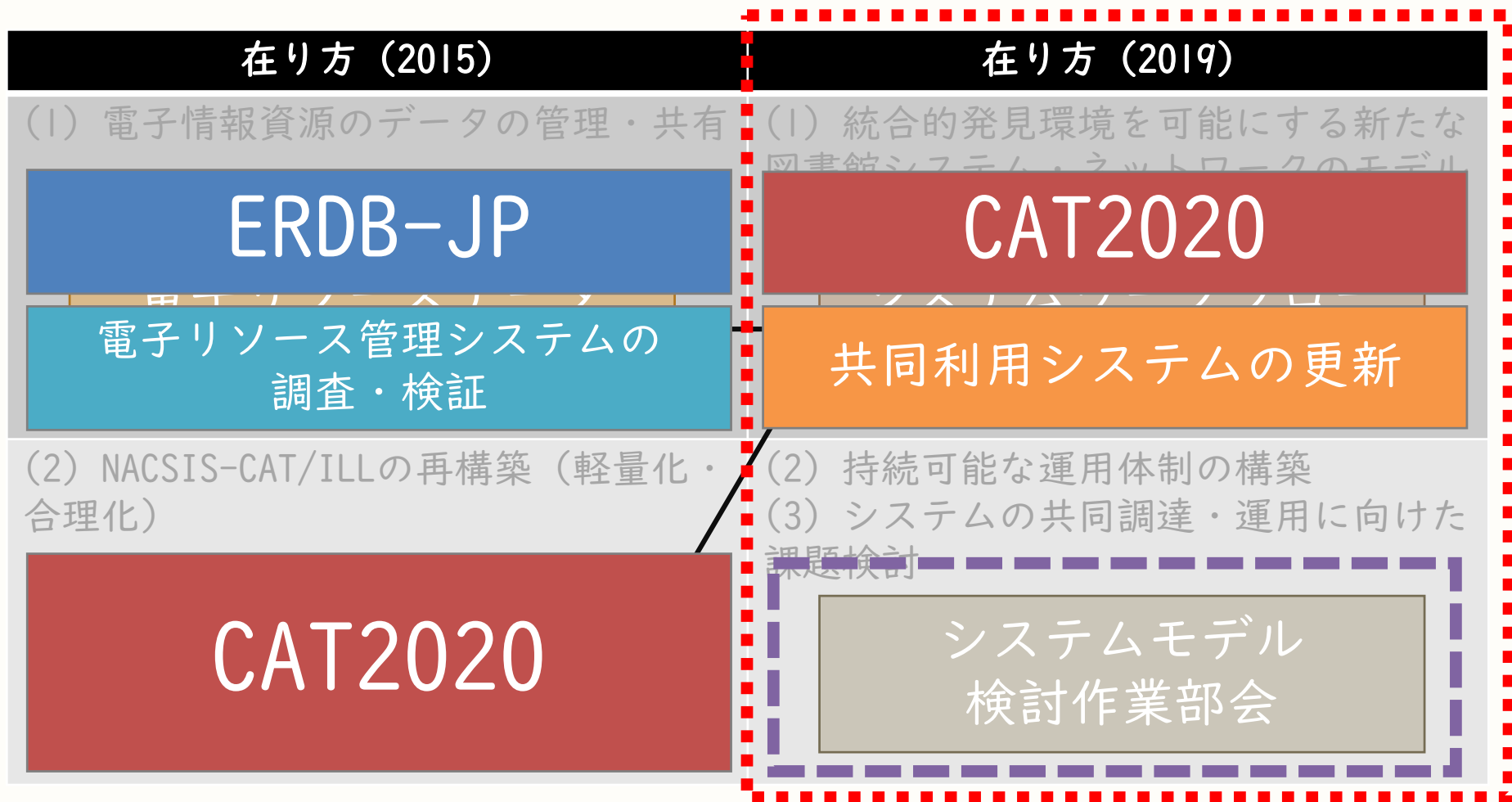
図書館システム・ネットワーク（大学等）



コミュニティ
の形成

システムモデル検討作業部会

ここまでの検討の経緯（まとめ）



私たちが共有するもの、協働すること



ご清聴ありがとうございました